

# 小島・田迎・上通・河内 界限

(株)浜田醤油

(平成 13 年 12 月指定)

景観形成建造物

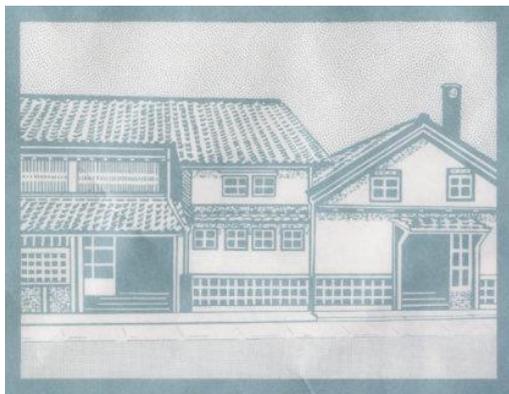


所在地 小島中町 107  
建築年代 明治 20 年  
構造 木造 2 階建て  
用途 醸造所

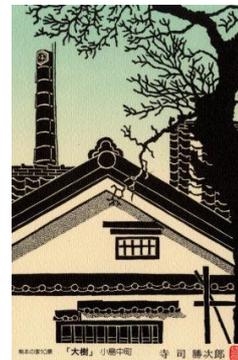


小島中町は、熊本市西部の白川下流と坪井川下流にはさまれた中州にあり、すぐ下流には、有明海の港である百貴港や要江港があります。江戸、明治には坪井川の水運を利用して、米や雑穀の集積が行われており、そのため、浜田醤油初代定二氏もこの小島中町で明治 20 年に醤油や味噌の醸造業を起こされたとのことです。

浜田醤油が建っている界限には、低層の木造住宅が連なり、昔のままの町並みが残っており、何か懐かしさを感じられる場所です。明治 20 年建築の浜田醤油は、腰を黒い下見板張り、上部はシックイ塗りの白壁、屋根は切妻の黒瓦とした、明治の面影を残す建物で現在も醸造所として活躍しています。月日を経て、ややすくんだ建物と煉瓦積の煙突は、セピア色のまちなみに調和し、小島中町の地域景観を特徴づける歴史的建造物です。



浜田醤油の贈答用包装紙



絵葉書『熊本の家 10景』より 寺田 勝次郎 作

# 木村家

(平成 13 年 12 月指定)

景観形成建造物



所在地 田迎 1-4-6

建築年代 江戸末期

用途 住宅

(在郷武家屋敷)

(内部の見学などはできません)

かや葺であった頃の木村邸



木村家は、市内で数少ない在郷の武家屋敷です。同家の先祖は加藤清正に随って肥後にきたとされ、細川家には明和7年(1770)に出仕し、在御家人となりました。細川重賢が再興した犬追物の射場が田迎村に移された際に、木村家は藩主の休息所となり、以後、犬追物催し方となったそうです。旧浜線沿いにある田迎公民館の脇には犬追物の記念碑が建てられています。

建物は、曲屋造のかやぶき屋根で、棟には瓦をのせ、屋根の裾は瓦を葺くが、他の部分は、かや葺(ちょんまげ屋根というそうです)という在御家人の屋敷の姿を昔のまま伝えている貴重な建築物です。また、木村家は、肥後伝統の名花の栽培で有名であり、春は桜、初夏は、肥後シャクヤク、肥後ショウブの花々で屋敷の前畑は彩られています。花畑は、花の開花の時期には肥後シャクヤク園、肥後ショウブ園として開放されています。

# 紫藤邸

(平成 13 年 12 月指定)

景観重要建造物



所在地 水道町 3-32

建築年代 明治中期

構造 木造 2 階建て

用途 専用住宅

(内部の見学などはできません)



景観形成建造物指定銘板



細川藩の時代には、上通の両側は大きな武家屋敷が並んでいました。西南の役以後に商店が出来、さらに市電が開通すると、ますます賑やかになり、現在は本市を代表する繁華街となっています。しかし、上通アーケードから一步中に入ると昭和20年の空襲も免れた、古いたたずまいを残している路地があり、新旧の対比や人間的なスケール感が上通の魅力の一つとなっています。紫藤邸がある桜井通は、桜井町の起こりとなった桜井戸跡と大きなクスノ木、手取神社の緑、大正末の洋館などがあり、町の歴史を感じられる通りとなっています。紫藤邸は大きな武家屋敷跡に建つ木造の住宅で、庭には中心部とは思えないような樹木の緑や土蔵が残っています。母屋は熊本電気株式会社代表取締役だった紫藤猛氏が建てたものであり、戦後は一時GHQが使用していたそうです。周囲には石堀が巡り、深い緑の中に立つ建物は、歴史を感じさせる上通の街角のアクセントとなっています。

## マミーフラワーデザイン熊本教室 花峰館 (平成16年12月指定)

### 景観形成建造物



花峰館外観



昭和29年頃

所在地 熊本市河内町岳 1844-356  
 建築年代 明治44年  
 (平成15年 現在地に移築)  
 構造 木造平屋  
 用途 マミーフラワーデザイン熊本教室  
 花峰館  
 (旧月星化成診療所)



月星化成診療所

花峰館は春日町にあった月星化成熊本工場の診療所であり、同工場の解体に伴い現在地に移転されました。明治44年当時の姿をいまでも保っており、洋風の意匠でありながら構造は和小屋という特徴をもっており、当時の大工場に付属する診療所の姿を伝える産業遺産としても貴重なものです。移築前は、工場の塀により見えませんでした。移築により可憐な建物が道から見るできるようになりました。また、同工場の電気室は大江に移築され熊本学園大学産業資料館として活用されています。明治時代の紡績工場は全国的にもほとんど残っておらず、貴重な産業遺産といえます。